

**2011年4月 石原社長定例記者会見概要**

4月21日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

**<編成関連>**

4月編成は始まったばかりだが、先週の上期第2週は、レギュラー番組のスペシャル版が揃って高い視聴率を獲得し、今後に期待できると手ごたえを感じている。特に60周年記念連続ドラマの『JIN-仁-』は、初回2時間5分スペシャルで、平均23.7%、瞬間最高視聴率26.0%と期待通りの高い数字でスタートした。この番組では「生と死」がテーマのひとつになっているが、大震災の後に視聴者の皆様にこのような心に響く番組をお届けできたことを大変嬉しく思っている。

また、開局60周年企画として「ハートプロジェクト」を昨年からスタートさせているが、60周年本番の今年は「With heart TBS」を合言葉に、見る人の心を揺さぶる、心を元気にする番組をお送りしていきたいと思っている。

絆プロジェクトでは、被災された方々に少しでも元気になっていただけるように、番組での様々な企画や、義援金の募集、被災地へラジオを送るなど、全社的に取組んできた。今後も復興に向けた状況や、原子力発電所事故の問題については、長期的に取材していかなければならないと考えており、新たに東北にJNNの臨時支局を設けることにした。TBSから支局長を派遣し、腰を据えて報道機関としての役割を果たしてまいりたいと考えている。

なお、番組などで呼びかけている「JNN・JRN共同災害募金」の義援金は、本日16億円を超えた。多くの方から寄せられた善意に対して、心よりお礼申し上げたい。

**<営業関連>**

2010年の国内の総広告費は、3年連続で減少したが、マスコミ4媒体のうちテレビだけが前年実績を上回った。このような環境の中で、2010年度の当社のテレビ営業収入は、タイムが前年実績を割り込む一方、スポットは前年を上回る見込みだ。震災による売上への影響は少なからずあったが、決算発表前なので、具体的な数字は控えたい。

今年度の見通しだが、震災の影響で日本経済そのものが相当落ち込んでいる。秋口から復興需要により持ち直すのではないかとの見方もあるようだが、まだ政府の復興計画も明確には定まっておらず、不透明な状況が続くのではないかと思う。タイムセールスは震災前に作業を終えていたため、2011年度上期のネット、ローカルの収入は前年度下期並を確保できているが、これからセールスが始まる下期については、広告市況の回復を願っている状況だ。スポットは、相当なキャンセルが出ており、4月の売上は当初の見込みより15億円ほど減少し、前年比で90%を割り込みそうだ。

いずれにしても、第 1 四半期は当初予想より大幅な減収となることは確実で、第 2 四半期以降の広告市況の動向を見極めつつ機動的に対応していかなければならない。楽観視できないと思っている。

#### <東北 3 県の地デジ延期>

7 月 24 日に全国一斉地デジ完全移行に向けて、被災地の放送局も含め最大限の努力をしてきたので、延期方針が決まったことは極めて残念なことと考えている。アナログを残すことになると、被災地の放送局には更なる経費の負担増となるので、今後総務省や政府に対して、民放の厳しい現状を説明し早期の完全移行と国としての支援をお願いしたいと考えている。

#### <節電対策>

当社は、もともと都市ガスを燃料とする自家発電機を使って、東京電力からの受電量を抑える運用をしていたが、この度の電力需給の逼迫を受けて、新たに 1 階ロビーや共用スペースの照明を落としたり、空調の設定を下げたり、事務室の蛍光灯を半減するなどの対策をとった。また、スタジオの電飾や照明も削減するなど節電に積極的に取り組んでいる。

また、「(電気を消して)元気を付けよう」プロジェクトを立ち上げて、更なる節電のアイデアを社内から募集している。夏に向けて具体的な節電目標が決まれば、補助用の自家発電機のフル稼働も含め、様々な節電策を積み上げて対応すべく関係部局に検討させている。余震が続き、まだ防災上必要な放送をする必要が出てくる可能性もある。深夜番組の自粛など放送の中断は前提とせず、節電のあらゆる努力を続けていきたい。

#### <ラジオ関連> TBSR&C 加藤社長

震災から 1 ヶ月を経過し「被災地にあなたのラジオを」キャンペーンでは 4 月 21 日現在 5,417 台のラジオを被災地及び避難施設にお届けしている。取材対応としては記者 1 名を現地に派遣しているほか、16 日(土)18 時から『～被災地は今～』と題した特別番組を編成した。震災の影響はあったものの 2010 年度は当初予測を上回る着地になる見通し。年度を通じて聴取率 1 位を維持することもでき、関係各位、社員、スタッフに感謝したい。2011 年度はたいへん厳しい経営を迫られることになる。業界としてはセットインユースの回復が最大の課題と受け止めており、良質な番組を放送することでこの課題克服に貢献していきたい。現在今年度 1 回目の聴取率調査が実施されており、大震災後初調査ということで結果に注目している。

4 月編成関連では土・日の夜と日曜昼に新番組が始まっており、主たる戦力に成長するよう期待している。営業的には、3 月はタイムスポット共に前年実績をクリアしたが、4 月以降は共に不透明な状況。事業関連も 3 月は震災の影響を受けたが、現状好調な分野を伸ばすと共に新規の企画開発にも積極的に取り組んでいきたい。

以上